

令和6年度入学者選抜

後期日程小論文試験

問題冊子

(岐阜大学医学部看護学科)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子をひらかないこと。
2. 問題冊子の本文は2ページです。その他に、解答用紙2枚と下書き用紙2枚が配付されています。試験開始後これらを確認し、落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所があればただちに試験監督者に申し出ること。
3. 各解答用紙の受験番号欄に受験番号を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の指定された箇所に記入すること。
5. 解答用紙を持ち帰ってはいけません。
6. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ること。
7. 試験時間は、10時30分から11時30分までの60分間です。

問題1 次の和文を読んで、以下の設問に答えなさい。

(配点 200 点)

個人化と「人それぞれ」に強い親和性があるように、⁽¹⁾「人それぞれの社会」と「個を尊重する社会」は、じつは非常に近い位置にあります。というのも、⁽²⁾「個を尊重」したからこそ、「人それぞれ」に陥ってしまう、ということがたびたびあるからです。詳しくみていきましょう。

「個を尊重する社会」とは、個々人の選択や決定を尊重する社会です。「一人」の生活の浸透とともに、生活のさまざまな場面で、個人の希望や選択がとりわけ重視されるようになりました。私たちは、集団ではなく自らの意思にしたがって、なんらかの行動を起こすことができるようになったのです。

このような社会では、いわゆる「べき論」を使って、相手の行為や主義・信条に申し立てをすることはあまりできません。具体的に言うと、「男性ならばこうあるべき」、「部下ならばこうあるべき」などといった形で、なんらかのカテゴリーを持ち出して他者に意見をすることは、こんにちでは容易ではないのです。皆さんも思い当たるのではないのでしょうか。他者が表出した意見や行動は、いったん受け止めるというのが、個を尊重する社会の流儀なのです。

このように、個人の希望や選択が重視されるようになると、誰かの希望や選択に対して、否定的な意見をなかなか言い出せなくなります。というのも、相手の考えを否定する行為は、「相手の考えや行動を尊重しない行為」と解釈されかねないからです。だからこそ私たちは、相手の考え方や行動を否定しないよう細心の注意を払います。

このような傾向は、若者の友人関係に顕著に表れています。日本では、一九八〇年代から、友人と深く関わろうとせず、互いに傷つけ合わずに、場を円滑にやり過ごすことに重きをおく友人関係が目立つようになりました。土井隆義^{どいたかよし}さんはこのような友人関係を、お互いの感覚のみに依拠し、相手を傷つけないよう過剰に配慮する「優しい関係」と表現しています。場を円滑にやり過ごすには、相手を否定しない、あるいは、傷つけないコミュニケーションの技法が有効なのです。

とはいえ、「否定しない」というのは、そう簡単にできることではありません。もちろん、明確な否定表現や中傷表現は避ける、「べき論」は避けるといった形で、簡単な予防は可能です。しかし、相手を否定したかどうかの判定は、多くのコミュニケーションにおいて、曖昧な領域に留め置かれたままです。というのも、なんらかの表現に対する否定判定は、結局のところ、発せられた言葉や行動を受け止める相手の気持ちにゆだねられているからです。

たとえば、友だちから進路についての相談を受けたとしましょう。このとき、友だちの話す進路について「あまりよくない」と思ったとしても、それを伝えるのは容易ではありません。伝え方によっては、相手に「自分のことを否定された」と思われるかもしれないからです。もっと簡単な例で言うと、相手を褒めたつもりだったのに、

反対の受け取られ方をする、ということは珍しくないでしょう。

このような状況は、私たちに非常に厄介な課題を突きつけます。私たちは、コミュニケーションの正解が見えないなか、相手の感情を損なう表現を避けつつ、その場を穏便にやり過ごすよう求められているのです。このような場で重宝されるのが「人それぞれ」という表現、または立ち位置です。「人それぞれ」という言葉は、相手の意向を損なわずに受容するという難題に対して、最適解を提供してくれます。

相手の考え方に違和感をもったとしても、「人それぞれ」と言っておけば、ひとまず対立を回避して、その場を取り繕うことができます。「べき論」を使って、規範を押しつけてくる人よりも、「人それぞれ」と言って、相手を受け入れてくれる人のほうが好まれるでしょう。私たちは「人それぞれ」という言葉を使うことで、さまざまな場を穏便にやり過ごしているのです。

では、このような社会は、お互いの主義・主張を、批判も含めためらいなくぶつけられる「個を尊重する社会」と言いうるのでしょうか。私には、主義・主張をぶつけ合うことよりも、対立を回避するために、他者に対する批判や意見を憚り、気を遣い合うことに重きをおいている社会に見えます。

(石田光規著『「人それぞれ」がさみしい 「やさしく・冷たい」人間関係を考える』ちくまプリマー新書、2022年、一部改変)

問1 下線部(1)「人それぞれの社会」と「個を尊重する社会」について、相違を明らかにするとともに、そのような相違が生じる背景を300字以内で述べなさい。

問2 下線部(2)「個を尊重」したからこそ、「人それぞれ」に陥ってしまうことをふまえ、「個を尊重する社会」についてあなたの考えを400字以内で述べなさい。